



<図書館イベント>

	日時		内容	会場
10月	8 (土)	14時～	おはなし会(赤ずきん)	○
	10 (月・祝)	13時～15時	認知症サポーター養成講座<ユメニティ会議室1・2>	
		15時～17時	タッチパネル認知症簡易検査	▲
	11 (火)～14 (金)	14時～16時	タッチパネル認知症簡易検査	▲
	11 (火)	11時～	乳幼児向けおはなし会(麦のこ)	○
	22 (土)	10時30分～	としょかん♪こどもまつり ※おはなし会や映画上映などがあります	★
	23 (日)	10時～	おもちゃ病院 ※受付14時まで	●
14時～		おはなし会(図書館職員)	○	
29 (土)	14時～	おはなし会(やまびこ会)	○	
11月	8 (火)	11時～	乳幼児向けおはなし会(麦のこ)	○
	12 (土)	14時～	おはなし会(赤ずきん)	○
		14時～	映画上映「ジョンQ」116分(土曜シアター)	★
	19 (土)	11時	大人向けおはなし会(まほうの箱)	○
	20 (日)	14時～	おはなし会(れろの会)	○
	26 (土)	14時～	おはなし会(ごくらくとんぼ)	○
	27 (日)	14時～	おはなし会(図書館職員)	○

○図書館おはなしコーナー ★ユメニティ小ホール ●図書館2階会議室 ▲図書館対面朗読室

直方市立図書館カレンダー

【10月】

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	⑧
9	⑩	⑪	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	⑫
⑬	24	25	26	27	28	⑭
30	31					

【11月】

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	⑧	9	10	11	⑫
13	14	15	16	17	18	⑬
⑭	21	22	23	24	25	⑮
⑯	28	29	30			

太字は17時閉館、■はお休み
○は行事のある日です



展示のご案内

一般展示

9/1(木)～10/25(火) 「アートを巡る秋」

児童展示

9/1(木)～10/25(火) 「いきものいろいろ大ずかん」

展示会のお知らせ

10/18(火)～11/29(火)

「この本、知ってる?～読書紹介文～」

※詳しくはチラシをご覧ください

直方市立図書館 TEL. 0949-25-2240
URL <http://www.yumenity.jp/library/library.html>
開館時間 火～土 10:00～19:00、日・祝 10:00～17:00

10月号のテーマ 扉

毎月、司書がひとつのテーマにそって本を紹介します。
秋の夜長に、読書はいかがですか？
※()は司書のペンネームです。



「黒い本 ついてくる怪談」

緑川聖司/作 KB913 ミ

家に一人でいると玄関のチャイムが鳴った。でも、のぞき穴の向こうには誰もいない。ドアを開けると、見えない手に突き飛ばされ…。

(「見えない訪問者」)

図書室で見つけた怪談の本を読んでいくと、まわりで本とそっくりな怪異が起り始める。ただ怖いだけじゃない、趣向を凝らした怪談シリーズ。 (茶白)

「夏への扉 新訳版」

ロバート・A・ハインライン/著

小尾美佐/訳 933 ハ

1956年に初版が刊行された本書。物語の舞台は14年後の1970年、主人公は冷凍睡眠により30年後の2000年に時間旅行するところから始まる。作者の思い描いた未来と、そのどちらも過去となった現在を比較しながら読むのも面白い。猫SFと呼ばれ、60年もの間愛され続けている永遠の名作。

(ヴィッツ)

「営繕かるかや怪異譚」 小野不由美/著 Fオ

気付けば、少し開いている扉……

その奥から何かが出てくる……

いわくある家で起こる怪異。そこに呼ばれるのはお坊さんでもなければ、霊能者でもない。建造物の修繕を行う営繕屋。彼は、家の障りを取り除き、怪異と住人が共存できるように修繕する。

どんなおどろおどろしい怪異も営繕屋が現れると一点して優しい奇跡に変わるので、怖いけれど読み進んでしまう本です。 (ちら)

「どろぼうのどろぼん」 斉藤倫/著 K913 サ

“どろぼん”を呼ぶのは、持ちぬしに忘れられてしまったもの、持ちぬしがなくなっても気づきもしないもの、じぶんがなくなったほうがいいと思っているものたち。どろぼんが玄関に立つと、そのとびらはあっという間にあいてしまう。そうして、どろぼんはその“もの”を連れ帰る。でも、だれもなくなったことに気づかない……。

なんだかつかみどころがなくふわふわしていて、でもものすごく印象にのこる、とてもとてもふしぎな物語です。 (kao)

「家事がしやすい部屋づくり」

本多さおり/著 597.5 ホ

家事に定年はない。著者流の、少しでもラクになる家事の仕組みが、写真とともにわかりやすく提示されています。狭い空間に、驚くべき方法で収納されている物もあり、この一冊で家事の新たな扉が開け、心が少し軽くなりました。家事のしやすい家にするのが、日々の小さな幸せにつながると、改めて気づかされた一冊です。 (るー)

「ルートヴィヒ二世の世界」

ペーター・O.クリュックマン/著 523.3 ク

ドイツのバイエルン王ルートヴィヒ二世は、美しい城を次々に建てました。王にとって城は現実から逃げ出し、空想の世界を実現する場所でした。城の扉の向こうには王の夢が今でも生きています。

城の美しさを楽しみながら、悲劇の王の生涯に思いをはせてみてはどうでしょうか。 (Bee)

